

国語科 単元の指導と評価の計画

尾道市立向島中学校
教諭 藤井 晃子

- 1 対象 中学校第1学年
- 2 単元名 「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」を読んで、「竹取物語」の魅力とはどのようなものかを考えよう

<単元の概要>

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語 各学年の目標及び内容〔第1学年〕内容〔知識及び技能〕(3)ア「音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。」を踏まえて設定している。

単元の目標の達成に向けて、言語活動を「「竹取物語」を読み、「竹取物語」の魅力とはどのようなものかについて、登場人物の人物像を基に考え、意見文を書く活動。」(C読むこと(2)イに基づく)と設定している。また、単元の評価規準、意見文の採点の基準を生徒と共有する場面を単元の導入時及び第5時に設定している。

生徒の学習改善を促すために「単元の全体マップ」を設定し、評価規準や単元の見通しを共有する場面や毎時間の振り返り、第5時における相互評価の場面で活用する。

- 3 内容のまとめり 〔知識及び技能〕 (3) 我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」

4 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能] (3)ア
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しもうとしている。 (3)ア	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。 (C(1)オ)	文章を読んで理解したことに基づいて、粘り強く自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って考えたことを意見文に書こうとしている。

6 具体的な課題と採点の基準等

以下は、〔思考・判断・表現〕の観点の評価する学習課題及び採点の基準である。

言語活動	「竹取物語」を読み、「竹取物語」の魅力とはどのようなものかについて、登場人物の人物像を基に考え、意見文を書く活動。関連：(言語活動例 C読むこと(2)イ)
学習課題及び採点の基準	【学習課題】 「竹取物語」の魅力とはどのようなものだと考えますか。登場人物の人物像を基に考え、次の条件1から3を満たすように意見文を書きなさい。 <学習課題の条件>

	<p>条件1 第1段落に、「竹取物語」の魅力とはどのようなものだと考えるか、登場人物の人物像を基にして自分の考えを書くこと。</p> <p>条件2 第2段落に、条件1の根拠となる描写を挙げること。</p> <p>条件3 第3段落に、なぜその描写を根拠として挙げたのかを、自分の知識や経験と結び付けて具体的に書くこと。</p> <p>【「おおむね満足できる」状況（B）と判断する基準】</p> <p>次の①②③を全て満たしている。</p> <p>① 第1段落に、「竹取物語」の魅力とはどのようなものだと考えるか、登場人物の人物像を基にして自分の考えを書いている。</p> <p>② 第2段落に、条件1の根拠となる描写を挙げている。</p> <p>③ 第3段落に、なぜその描写を根拠として挙げたのかを、自分の知識や経験と結び付けて、具体的に書いている。</p> <p>想定されるつまずきの類型</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ①②を満たし、③を満たさないで書いているもの 2 ①③を満たし、②を満たさないで書いているもの 3 ①を満たし、②③を満たさないで書いているもの 4 ①の一部を満たしているもの（②③を満たしているかどうかは不問とする） 5 上記以外 6 無解答
<p>「おおむね満足できる」状況と判断される生徒の記述例</p>	<p>私は、「竹取物語」の魅力とは、「竹取物語」の人物の行動や考え方を捉えることを通して現代の私達の行動や考え方を振り返り、教訓とすることができることだと考えます。</p> <p>くらもちの皇子は、かぐや姫から難題として蓬萊の玉の枝を持参するように言われました。「いずれも入手至難なものばかりで」とあり、くらもちの皇子は普通に探したのでは絶対に見つからないと分かっていたと思います。そこで、「知恵で難題に挑むのであった」とあるように、にせの玉の枝を作らせ、かぐや姫をだまそうとしました。しかし、玉作りの匠たちが押しかけてくることで「皇子の策略はいっぺんに破れて」しまいました。</p> <p>くらもちの皇子の行動は、昔の人だけでなく現代の人にも通じるのではないかと思います。私もくらもちの皇子のように、ウソをついたり、ずるい手を使ったりしてしまうことがあります。例えば、宿題が終わりそうになかったときに、ついつい答えを写してしまうことや、自分に都合が悪い時にはウソをついてしまうことです。しかし、「竹取物語」を読んで、ウソをついて人をだまそうとしても、それはどこかでばれてしまうのだということが分かりました。</p> <p>「竹取物語」を読むと、千年も昔の「竹取物語」の登場人物に、現代の私達と共通する点を見付けることができます。だから、「竹取物語」に登場する人物の行動を考えることで自分の考え方を振り返り、教訓にすることができることが、「竹取物語」の魅力ではないかと考えました。</p>

7 指導と評価

(1) 知識・技能

「音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと」に関して、ここでは歴史的仮名遣いなどの口語とは異なる古語のきまりを学習し、繰り返し音読することを通して古文独特のリズムに気付かせたり、現代語訳を手掛かりに口語と文語の意味の違いに着目させ、古文独特の言い回しや表現、語句に触れさせたりすることを通して古典の世界を親しませることを目指していく。

記録に残す評価はペーパーテストで行う。ペーパーテストでは、歴史的仮名遣いを現代仮名遣い

に直す問題や重要な語句を現代語訳する問題等を用いて、文語のきまりを正確に理解することができているかどうかを確認する。

指導に生かす評価はペーパーテストに至るまでの学習活動において、ワークシートに書かれた生徒の記述や、「単元の全体マップ」の音読評価表の記述に対して行う。音読評価表の評価項目は歴史的仮名遣い、古典のリズム、語句のまとまりという3点を設定し、それぞれの項目について理解した上で音読できているかどうかを相互評価させる。

歴史的仮名遣いや古典の難解な語句に触れる初めての単元であるため、歴史的仮名遣いの特徴やきまりを理解せず、正確に現代仮名遣いに直すことができないというつまずきが想定される。このようなつまずきに対しては、小学校時に行った音読や暗唱などによる学習を振り返るフィードバックを行うことや、「単元の全体マップ」に歴史的仮名遣いや難解な語句に関する事項を知識として蓄積させることで、学習の定着を図る。また、「単元の全体マップ」に、分からなかったこと、はっきりしないことという項目を設けることで、つまずきの把握ができるように工夫する。

(2) 思考・判断・表現

本単元において、自分の考えを確かなものにする上で重要なのが、文章を読んで理解したことに基づくことである。文章を読んで理解したことに基づくとは、行動に関する描写を基に登場人物の心情を捉え、精査・解釈しながら登場人物の人物像を考えるとことや、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉えることを意味する。この視点は、現代の小説等だけでなく、古典を読む際にも重要な読み取りの視点である。そのため、言語活動の設定においても「竹取物語」の魅力とはどのようなものであるかを、登場人物の人物像を基に考えることを重視した。

記録に残す評価を行う学習活動として、「竹取物語」を読み、「竹取物語」の魅力とはどのようなものかについて、登場人物の人物像を基に考え、意見文を書く」という言語活動等を設定する。意見文では「竹取物語」に登場する人物の行動や心情の描写を適切に捉えることができているか、そしてそれらを解釈し、どのように自分の考えに生かしたのかを評価する。

指導に生かす評価は、意見文の下書きの記述と評価規準を照らし合わせ、根拠となる描写を挙げているか、その描写は根拠として適切であるか、言葉の見方や考え方を働かせて自分の考えを確かなものになっているかどうかを見取る。

生徒が文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにしていく学習過程で、次のようなつまずきが想定される。

○根拠として適切でない箇所を挙げている。

○根拠は挙げているが、なぜその箇所を根拠として挙げたのかという説明がなされていない。

○根拠として挙げている描写が、自分の考えと適切に結び付いていない。

これらのつまずきに対しては、主に次のような手立てを講じる。

○登場人物の行動を表す語句に注目させ、その語句の辞書的な意味を確認させる。

○登場人物が、なぜその行動をとったのか、心情や情景に関する描写と結び付けて考えさせる。

○「自分だったら～？」といった問いかけを行い、自身の経験や既存の知識と結び付けることで、登場人物の行動を具体的に想像させる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

生徒自身が単元の目標を意識して学習課題に取り組み、評価規準に照らして、他者の考えと自分の考えを照らし合わせ自分の考えを広げているかを把握し、意見文の下書きを加筆・修正して自分の考えを確かなものにしようとしているかどうかを見取る。

記録に残す評価は、意見文の下書きの記述を評価する。意見文の下書きを、Google Jamboardを用いた意見交流シートに記述し、相互評価において、学習課題の条件に照らして気付きやアドバイスを付箋に記入し合う。それを基に自分と他者との考えを比較させることで自分の考えを振り返らせ、自分の考えの良い点や改善点を把握させる。そして、下書きを加筆・修正することで自分の考えを確かなものにさせる。この意見文の下書きの推敲履歴を基に、生徒が評価規準に照らし合わせながら自分の考えを確かなものにしようと、粘り強く加筆・修正しているかどうかを評価する。

指導に生かす評価は、「単元の全体マップ」における生徒の記述及び相互評価に基づいた意見文の下書きの推敲履歴を基に行う。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、行動や情景の叙述に注目しながら記述をよりよいものにしようと試行錯誤しているか、相互評価での他者からのアドバイス等を参考にしながら自分の学習状況を振り返ったり、改善したりしているかどうかを、意見文の下書きの加筆・修正の過程や「単元の全体マップ」の記述から見取る。見取りの過程において、評価規準と生徒の学習状況を照らし合わせ、どの点が良いのか、どの点に課題があるのかを把握し、生徒が自分の学習状況やつまづきを把握できるようなフィードバックや、これからどのように学習を進めていけばよいのかを理解できるようなフィードバックを行う。

8 単元計画

時	各時間の目標 (■) 主な学習活動 (・)	○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価 (評価方法)	形成的評価の実践上の ポイント
1	<p>■単元の目標と学習課題を確認し学習の見通しをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竹取物語」について、小学校での学習を想起し、古典の世界に触れることの意義を考え、学級全体で共有する。 ・「単元の全体マップ」を使って、単元の目標と学習課題を確認し学習の見通しをもつ。 ・「星の花が降るころに」についての意見文を例に、単元における評価規準を満たす意見文の具体を共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【共有の具体的な方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「星の花が降るころに」のワークシートに示された意見文の模範例から、評価規準を満たす箇所の記述に色分けをして線を引く。 ・色分けをして線を引いた理由をグループで交流し、どのような記述があれば身に付けたい力が身に付いたと判断できるのかという具体をイメージする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりを踏まえて教科書の本文を音読し、古文独特のリズムを感じる。 	<p>○主 (交流の様子の観察、「単元の全体マップ」)</p> <p>○知 (「単元の全体マップ」、音読の様子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「星の花が降るころに」を基にした意見文の模範例と、評価規準とを照らし合わせ、評価規準を満たす記述を生徒と共有する。 ・ペアで音読させる際に、「単元の全体マップ」の中に示した「音読評価表」を用いて文語のきまりを理解しているかを確認し合う。
2 3	<p>■物語の展開や登場人物の相互関係を、描写を基に捉えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳を手掛かりに、物語の展開や登場人物の相互関係について整理する。 	○思 (ノートの記述)	
4	<p>■登場人物の行動を、場面と行動の描写を結び付けて具体的に想像することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動の中で特に心に残ったものを 	○思 (ノートの記述)	

	<p>挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜその行動に着目したのかを、場面と登場人物の心情や行動を結び付けて根拠となる描写を挙げる。 なぜその描写を根拠として挙げたのかを、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して明確にし、登場人物の人物像を具体的に想像する。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が互いの解釈を比較し、参考にし合えるように「最初から完璧でなくて大丈夫だよ。」「友達に見せてもらって大丈夫だよ。」といった声掛けをする。 				
5	<p>■文章を読んで理解したことに基づいて、根拠を明確にして自分の考えを確かなものにすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題の条件を確認し、評価規準を満たす記述を共有する。 <p><学習課題の条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ○根拠となる描写を挙げること ○自分の知識や経験と結び付けて書くこと <ul style="list-style-type: none"> 「竹取物語の魅力」とはどのようなものであるかを、登場人物の人物像を基に考え、Google Jamboard の意見交流シートに、学習課題の条件に沿って意見文の下書きを書く。 意見文の下書きをグループで読み合い、Google Jamboard の付箋に、意見文の下書きに対する気付きやアドバイスを記入し合うことで相互評価を行う。 <table border="1" data-bbox="188 1182 786 2018"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="188 1182 786 1227">【相互評価の具体的な手順と留意点】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="188 1227 491 2018"> <p>【手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手が前向きに改善できるような気付きやアドバイスをすることを確認する。 学習課題の条件をクラス全体で確認する。 グループで意見文の下書きを読み合う。その際、学習課題の条件と照らし合わせながら読み、どの記述があれば、どの条件を満たしたと判断できるのかを明確にする。 付箋を学習課題の </td> <td data-bbox="491 1227 786 2018"> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きやアドバイ </td> </tr> </tbody> </table>	【相互評価の具体的な手順と留意点】		<p>【手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手が前向きに改善できるような気付きやアドバイスをすることを確認する。 学習課題の条件をクラス全体で確認する。 グループで意見文の下書きを読み合う。その際、学習課題の条件と照らし合わせながら読み、どの記述があれば、どの条件を満たしたと判断できるのかを明確にする。 付箋を学習課題の 	<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きやアドバイ 	<p>○思（意見交流シート） ◎主（「単元の全体マップ」、意見交流シートの推敲履歴）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 再度「星の花が降るころに」のワークシートを見直し、意見文にどのような記述があればよいと言えるのかを確認させる。 Google Jamboard の付箋を、条件ごとに色分けし、評価の観点を明確にさせた上で相互評価させる。 どのような記述があればどの条件を満たしたと判断できるのかを机間指導を通じて確認させる。 相互評価の助言による加筆・修正が難しい生徒には「この言葉のどのような意味に注目したのか」「登場人物のどの行動の描写からそう考えたのか」等のフィードバックを行い、自分の考えの根拠を明確にすることができるように助言する。
【相互評価の具体的な手順と留意点】							
<p>【手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手が前向きに改善できるような気付きやアドバイスをすることを確認する。 学習課題の条件をクラス全体で確認する。 グループで意見文の下書きを読み合う。その際、学習課題の条件と照らし合わせながら読み、どの記述があれば、どの条件を満たしたと判断できるのかを明確にする。 付箋を学習課題の 	<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きやアドバイ 						

<p>条件ごとに色分けし、気付きやアドバイスを入力し合う。</p>	<p>スは可能な限り具体的な言葉で行う。 <例> ・～～と書いてあるが、○○を書き加えた方がよいのではないでしょうか。 ・根拠は～～と書いてありますが、○○を根拠とした方がよいのではないのでしょうか。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価を受けて、意見文の下書きの加筆・修正をする。 ・全体交流の場で、意見文の下書きの記述を発表し合い、どのような記述があれば「根拠となる描写を挙げること」、「自分の知識や経験と結び付けて書くこと」という学習課題の条件を満たした姿と判断できるのかを、具体的にイメージする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況（A・B・C）を把握し、それぞれの学習状況の生徒から一人ずつ指名し、意見文を読ませた後、それぞれ全体に向けてフィードバックを行う。発表者以外の生徒は、自分と同じ学習状況の意見文に対するフィードバックを参考にして、自分の意見文を改善できるようにする。
<p>6 ■単元を振り返り、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするポイントを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で加筆・修正した意見文の下書きに基づいて、意見文の清書を Google ドキュメントに記入する。 ・清書した意見文をグループで読み合い、学習課題の条件に基づいて考えを共有する。 ・初読、相互評価、意見文の完成の段階を経て自分の考えがどのようにして確かなものになっていったかを振り返り、「単元の全体マップ」の「学びの足あと」に書く。 ・単元全体の学習を振り返り、どのようにすれば、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするのかを理解する。 		<p>◎思（意見文の清書） ◎主（「単元の全体マップ」）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文の下書きから相互評価を受けての加筆・修正、清書までの思考の過程を振り返り、他者の考えと自分の考えを照らし合わせ、自分の考えを広げているかを確認させる。

後 日	ペーパーテスト	◎知 (ペーパーテスト) ◎思 (ペーパーテスト)	
--------	---------	------------------------------	--